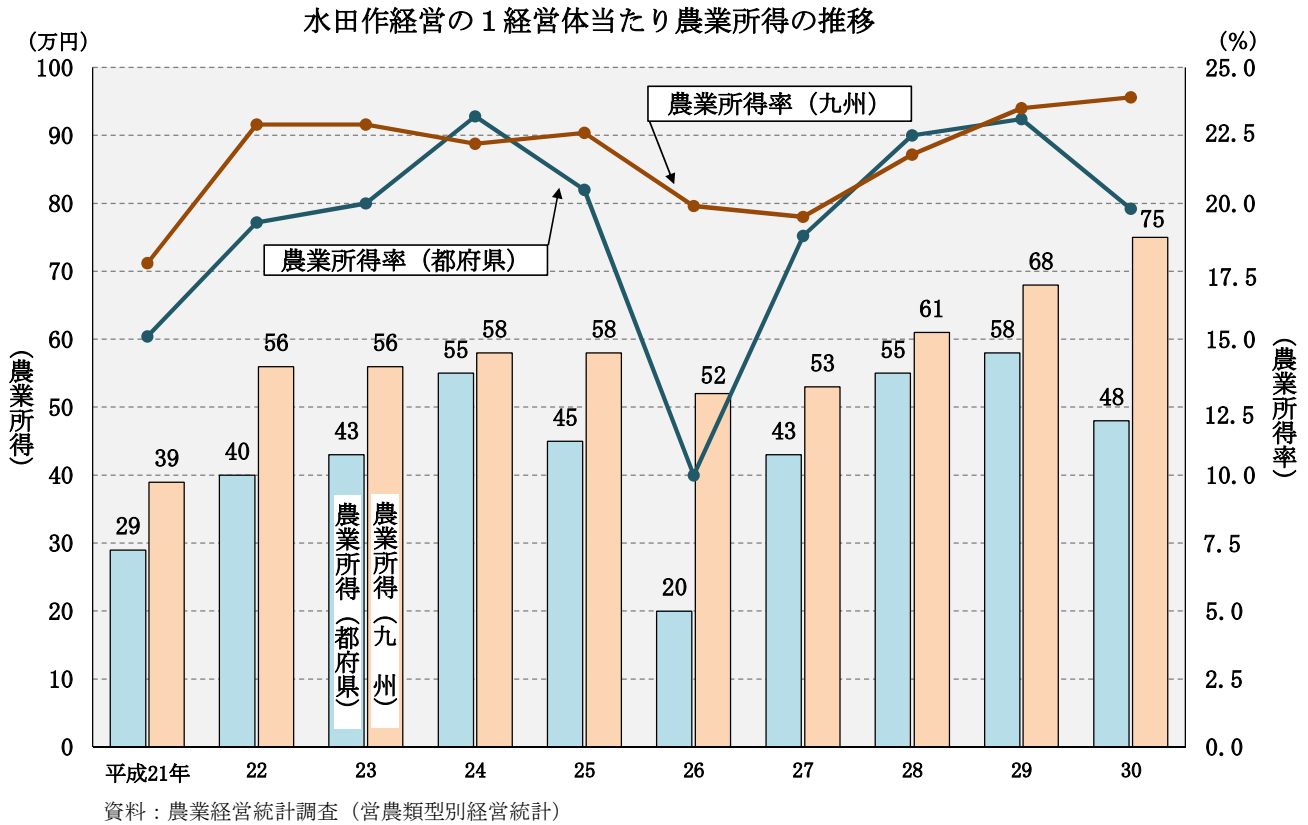


5 水田作経営の収益性（個別経営）

（1）1経営体当たり農業所得の推移

- 九州の水田作経営の1経営体当たり農業所得は、平成21年に比べ92%増加。
- 農業所得を都府県平均と比較すると、平成30年では九州が5割以上高い。
これは裏作麦の作付けにより耕地利用率が高いことが主な要因である。



水田作経営の経営耕地の利用状況（平成30年・1経営体当たり）

		都府県	九州	九州／都府県
経営耕地面積	a	220.2	243.2	1.10倍
	うち、田	198.4	219.6	1.11倍
作付延べ面積	a	195.9	275.8	1.41倍
	うち、田	186.6	264.5	1.42倍
耕地利用率	%	89.0	113.4	+24.4ポイント
	うち、田	94.1	120.4	+26.3ポイント

資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

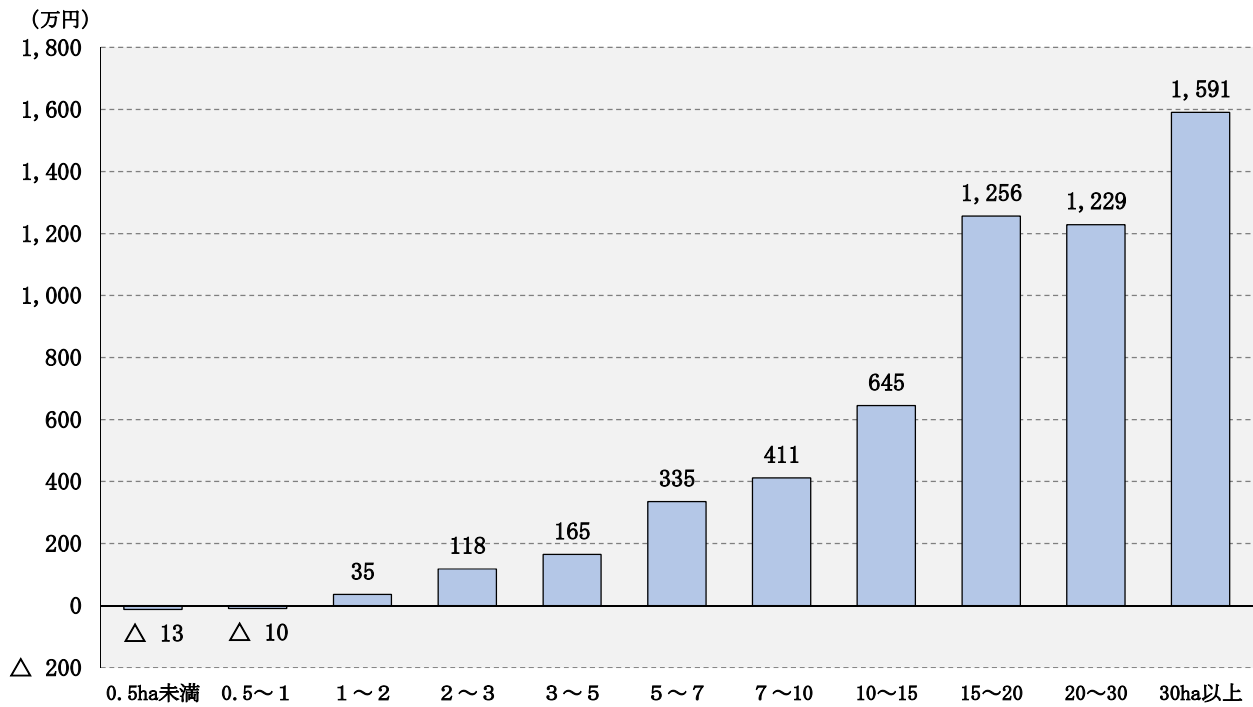
注：耕地利用率の「九州／都府県」の欄は、九州と都府県の差。

5 水田作経営の収益性（個別経営）

（2）作付規模別の比較（都府県）

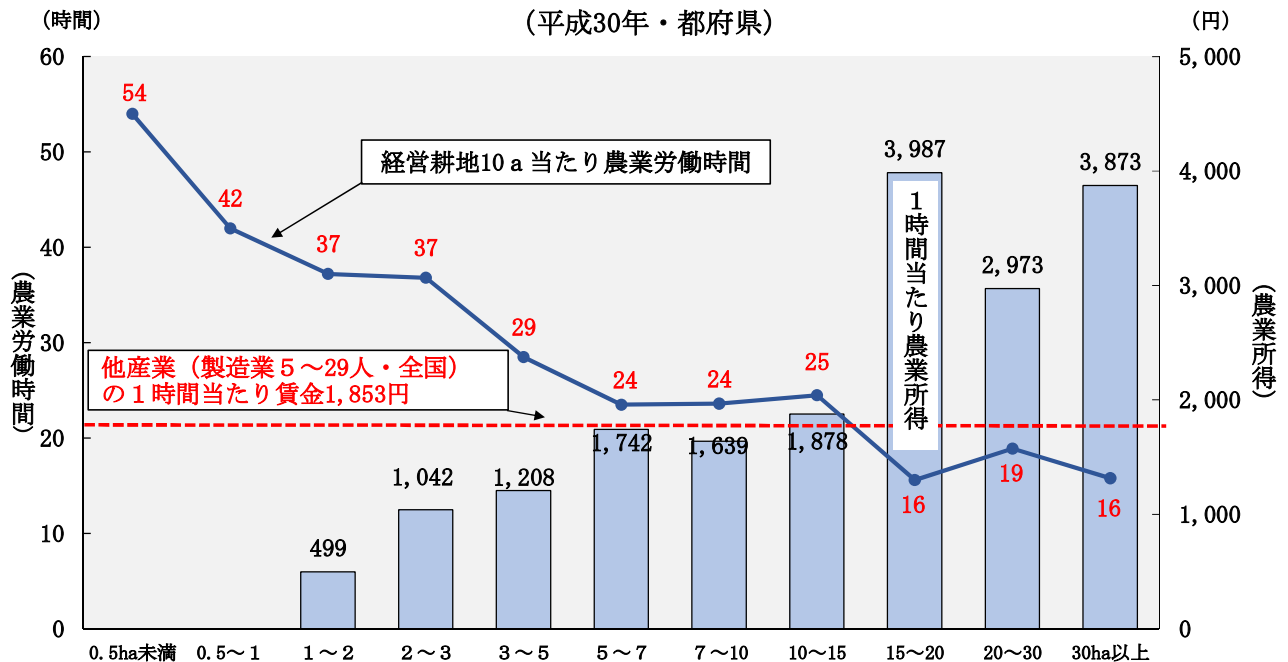
- 水田作経営のうち、稲作を主とする経営の農業所得は、作付規模が大きくなるのに伴い増加し、15～20ha規模では約1,300万円。
- 10a 当たり労働時間は規模が大きくなるのに伴い減少することから、1時間当たりの所得も大規模ほど高くなり、10ha以上で他産業従事者の賃金水準を上回っている。

水田作経営（稲作1位経営）の作付規模別農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

水田作経営（稲作1位経営）の作付規模別労働時間と1時間当たり農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」（H30）

注：「0.5ha未満」及び「0.5～1」については、農業所得がマイナスのため非表示。